同窓生

菅原 出 (Kenneth 高森38回生)

同窓38回の菅原出です。幼稚園とフレンドでの思い出はたくさんありますね！当時、フレンド愛は誰にも負けないと自負していて、もちろん1回も休みませんでしたし、東日本大震災の当日も、バスが来ないからと自転車で高森まで行き、先生に呆れられたのを覚えています。中でも5年生の時のフィリップ先生には、大変お世話になりました。関西旅行だけでなく、友達と楽しく授業を受けていたことはいい思い出です。うるさくしていたので、フィリップ先生にとっていい思い出だったかは別ですが…（笑）。フィリップ先生には今でもお世話になっています！

私は現在、宮城教育大学に在学中ですが、2019年に1年間休学をしてアメリカのデラウェア州立大学に留学をしていました。デラウェア州は日本ではあまりなじみのない州かもしれませんが、宮城県の姉妹州でもあり、歓迎だとバイデン大統領ゆかりの地として少しだけ有名になったかもしれません。

留学中は様々な授業を受けましたが、中でもアメリカ史の授業が印象に残っています。日本にいるとなかなか感じづらい「多様性」というものをアメリカの歴史を学びながら、現地でも肌で感じることができました。また、現地の中学校と高校にある日本語クラブで、日本語や日本文化を教える先生としても活動してきました。アメリカの子供達は漫画やアニメがとても大好きで、日本人の私より詳しかったです（笑）。

私は小さい頃から英語が大好きで、今も大学では英語を専攻しています。これらのきっかけには明確が切っても切り離せません。異なる文化の人々と英語を用いてコミュニケーションができる喜びや楽しさだったり、英語ができるからこそわかることがあったりと、英語は人生の幅を広げることができるツールだと思っています。そのような意味で、英語教育の大切さを私は感じています。

最近では、留学から帰国して対面で授業をすることも少なくなったせいか、英語を使う機会が圧倒的に少なくなり、忘れてしまうのではないかと焦りを感じています。それと同時に、明泉は英語をたくさん使うことができる貴重な場であったなとしみじみ感じます。明泉で英語をたくさん学んで、みなさんの人生の幅が広がることを願っています！

写真左：フレンドクラブ5年生の離礁旅行（本人は左奥）　写真中央：留学先で大学の友達と一緒に
写真右：高校の日本語クラブ

アメリカの子供向けニュースサイト SCHOLASTIC KIDS PRESS

G6生が日本唯一のリポーターとして活躍中

「SCHOLASTIC KIDS PRESS」は世界の国々から選ばれた10～14歳の子供達が子供向けのニュースを発信しているインターネットサイトです。政治、エンターテインメント、環境問題、スポーツなど、自分の国の出来事を紹介しています。

今年春、2020～2021年のリポーター募集に応募した丸山プリミアG6生の高橋ななか（Jenny）さんが日本でただ1人のリポーターに見事選ばれ、他の国から選出された44人のリポーターとともに活躍中です。

ななかさんが海外リポーターとして紹介されているページ
https://kpcnotebook.scholastic.com/about-kids-press

in 宮古島市

ななかさんが発信した12月16日付の記事
「えんとつ町のプペル 光る絵本展」

ななかさんの英語のナレーションを含む約2分間のニュース動画を見ることができます。
https://kpcnotebook.scholastic.com/post/poupelle-chimney-town

高橋ななか さん（Jenny）

Bible verse 聖書

私たちが神の子どもと呼ばれるために、御父がどんなにすばらしい愛を与えてくださったかを、考えなさい。
愛する者たち、私たちは今すでに神の子どもです。やがてどのようになるのか、まだ明らかにされていません。
しかし、私たちは、キリストが現れたときに、キリストに似た者になることは知っています。キリストをありのままに見るからです。
キリストにこの望みを置いている者はみな、キリストが清い方であるように、自分を清くします。　ヨハネの手紙 第一 3:1-3

このシリーズでは、私達の生きる意味や人間と神様の関係について、聖書がどう教えているのか考えてきました。前回は、「神の愛と救い」というタイトルでイエス・キリストの十字架の死と復活について書きましたが、今回はそれによってもたらされる希望と平安について考えるとともに、シリーズ名にある「人の生きる意味」についてお話しし、このシリーズを終わりたいと思います。

第5回

希望と平安

人間がこの地上で過ごす時間は約80年、健やかであれば100歳を超えて生きる人もいますが、あっという間の人生です。人生には喜びや楽しみもあるかもしれませんが、大変なことや苦しい時もあります。そのような人生で、「希望と平安」はどこに見出すことができるのでしょうか。それは一言で言うと、自分の罪が赦されて永遠の命がいただけるという確信を持つことです。

イエス・キリストは、ご自身が十字架にかけられる前に次のように語りました。

まことに、まことに、あなたがたに言います。わたしのことばを聞いて、わたしを遣わされた方を信じる者は、永遠のいのちを持ち、さばきにあうことがなく、死からいのちに移っています。
<ヨハネの福音書 5:24>

私達はキリストへの信仰を通して、罪が赦され神様の子供となり、永遠の命という最高の贈り物をいただけるのです。この約束が私達の「希望と平安」の源なのです。

天の国と新しいからだ

使徒パウロはピリピにある教会に書き送った使りの中に、イエス様の再臨について以下のように記しました。

しかし、私たちの国籍は天にあります。そこから主イエス・キリストが救い主として来られるのを、私たちは待ち望んでいます。キリストは、万物をご自分に従わせることさえできる御力によって、私たちの卑しいからだを、ご自分の栄光に輝くからだと同じ姿に変えてくださいます。
<ピリピ人への手紙 3:20-21>

私達に神様の子供として天国の「国籍」が与えられるのです。そして、病を患い、痛みを経験し、年々衰えていくこの地上のからだが、イエス様と同じような朽ちることのない栄光に輝くからだに生まれ変わるという素晴らしい約束です。

私はまた、大きな声が御座から出て、こう言うのを聞いた。「見よ、神の幕屋が人々とともにある。神は人々とともに住み、人々は神の民となる。神ご自身が彼らの神として、ともにおられる。神は彼らの目から涙をことごとくぬぐい取ってくださる。もはや死はなく、悲しみも、叫び声も、苦しみもない。前のものが過ぎ去ったからである。
<ヨハネの黙示録 21:3-4>

これは、イエスの弟子ヨハネが年老いた時に神様からの啓示を受けて記した書物「ヨハネの黙示録」に書かれており、天国の様子が垣間見える言葉です。私達の涙が拭き取られ、病気も苦しみも死もない、喜びに満ちた神の国を私達は受け継ぐのです。

人生の目的

神様が最初の人間を創造した時にあった神様と人間の素晴らしい関係が、罪のために壊され、人間は神様と敵対するものとなりました。しかし、イエス様の十字架の犠牲を通して、誰でも神様と和解できるのです。そして、神様に立ち返ることを通してその関係が修復されるのです。

イエス・キリストの福音を信じイエス様を心に受け入れた人は、その時から神様の子供となり、新しい命が始まります。それまでの自己中心的な生活、自分の欲望を追い求める生き方を悔い改めて、神様に喜ばれるように努めます。旧約聖書のミカ書には、私達の生きるべき姿が以下のように示されています。

主はあなたに告げられた。人よ、何が良いことなのか、主があなたに何を求めておられるのかを。それは、ただ公正を行い、誠実を愛し、へりくだって、あなたの神とともに歩むことではないか。
<ミカ書 6:8>

「人の生きる意味」に関する聖書の教え

園長
ダニエル・ファンガー

宗教的な儀式ではなく、人の称賛や栄誉を得るために外面を飾るのでもなく、心の思いと動機までも見ておられる神様を喜ばせる生き方をするということです。ある律法学者がイエス様に「一番大切な戒めは何ですか」と尋ねた際に、イエス様は以下のように答えました。

「あなたは心を尽くし、いのちを尽くし、知性を尽くして、あなたの神、主を愛しなさい。」これが、重要な第一の戒めです。「あなたの隣人を自分自身のように愛しなさい」という第二の戒めも、それと同じように重要です。この二つの戒めに律法と預言者の全体がかかっているのです。
<マタイの福音書 22:37-40>

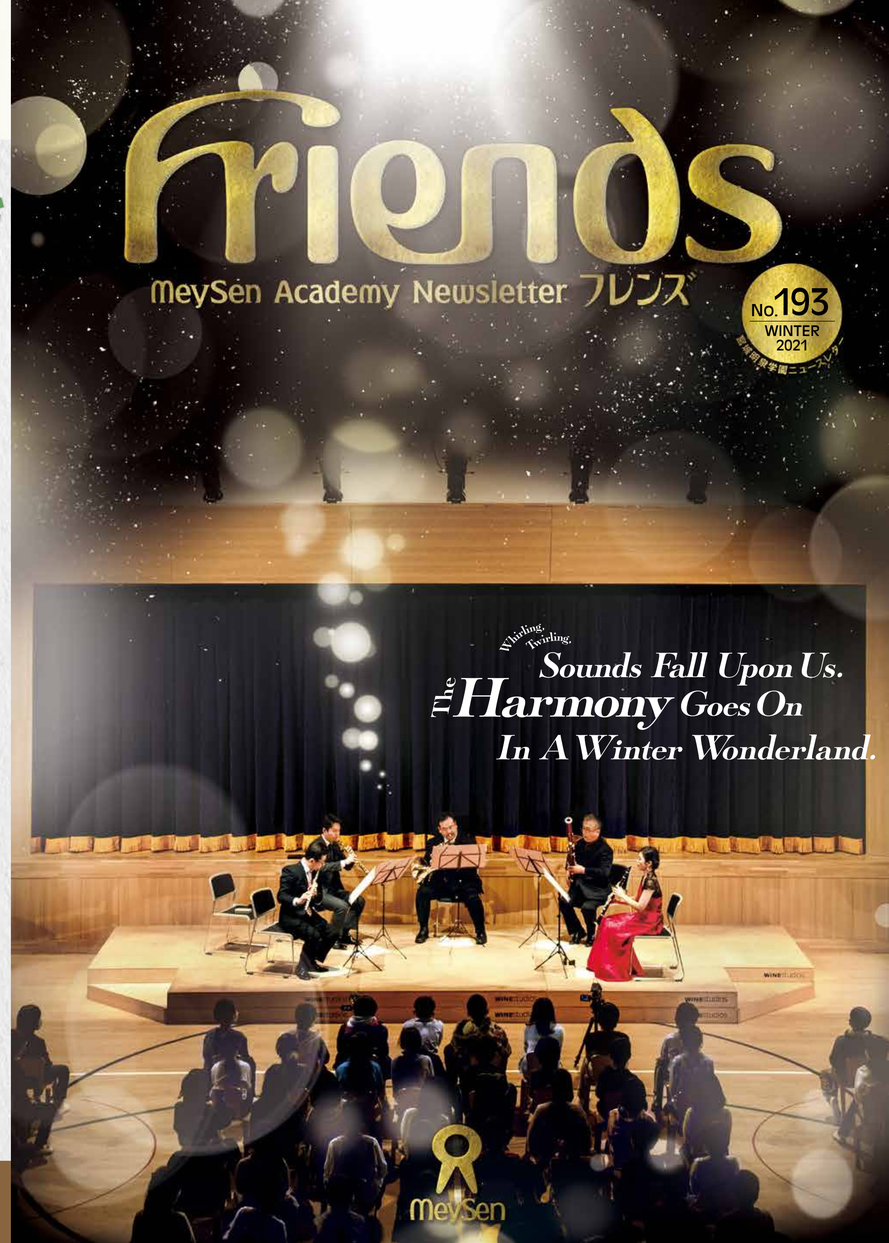
創造主である神様と神の形に創られた人間を心から愛すれば、すべての戒めを守ることとなります。神様がどんなに私達を愛してくださったのか、イエス様がどんなに大きな犠牲を払ったのか、理解すればするほど私達も神様を愛するようになります。そして、行いにおいても、ことばにおいても、心の思いにおいても神様に喜ばれるように努力を続けることが大切です。自分自身を愛するように隣人を愛するなら、他人に害を及ぼすようなことばや行動もとりません。

もちろんこの地上にいる間は、罪の性質を持っているので、失敗をして罪を犯すこともあります。そのような時には、神様の前でへりくだって罪を告白し、赦していただき、神様に感謝しましょう。

あなたは、神様との愛の交わりのために生まれたのです。そこに人生の目的と本当の喜びがあるのです。この地上の物質や富では心は満たされません。神に仕えること、他人のためになることを通してのみ、本当の喜びと満足が得られるのです。

表紙の言葉　木箱の美しい音色が降り注ぎ、ハーモニーが子供達を冬のワンダーランドへと誘った丸山での音楽鑑賞会。1月には高森で開催しますので、どうぞお楽しみに！

発行日：2021年1月19日　発行：宮城明泉学園　www.meysen.ac.jp
Friends Newsletterは、カンガルークラブからハイスクール、同窓生などに関するニュースをお届けする学園ニュースレターで、明泉サイトでも公開しています。



What are your favorite things in winter?

去年は我慢しなければならないことが多い一年でしたが、
新たに始めたことや体験したことも多かったのではないでしょうか。
学校や明泉のオンライン授業を受けたり、
遠くの人とスマホやパソコンで顔を見ながら会話したり、
お店に行かないと食べられなかったご飯をおうちに届けてもらえたり！
新型コロナウイルスの影響は、残念ながらまだしばらく続きます。
そんな中でも、新しい技術や文化に興味を向けながら、
今年も明泉でたくさんのワクワクと感動を
積み重ねていきましょう。

県英語弁論大会で1位に
～卒園生が大健闘～

第73回宮城県高等学校英語弁論大会が開催され、第2部で板屋海優さん（Lori／高森41回生）が見事1位に輝きました。2018年から明泉のプログラムで1年間アメリカに留学し、研鑽を積んできた成果を発揮した海優さんの今後の活躍が楽しみです。

プリミアハイスクール「English Cafe」

昨年12月10日と11日、プリミアハイスクールで「English Cafe」イベントがありました。中1～高2の生徒が学年入り交じりで少人数のグループに分かれ、いろいろな先生と会話やディスカッションを行う新しい試みです。ふだんあまり話すことのない主事や主任の先生も加わり、テーブルゲームを囲みながら笑い声溢れるイベントになりました。

お遊戯会の舞台裏
～背景ができるまで～

今年も幼稚園の子供達がたくさんの観衆の前で歌や演技を披露したクリスマスお遊戯会。堂々とした姿に胸が熱くなった保護者の方も多かったことでしょう。

お遊戯会に向けては衣装、道具、照明、音響などさまざまな準備が行われますが、丸山では大きくなったホールで初めてのお遊戯会のため、先生達が各演目の背景を新しく作り直しました。どのようにしてあの大きな背景ができるのか、工程をご紹介します。

印刷
147.5㎝×60㎝の紙を大判プリンターで印刷します。特別な大きさの紙とたくさんのインクを使います。

↓

貼り合わせ
印刷した紙を縦2枚×横16枚の計32枚貼り合わせ、縦295㎝×横960㎝の大きな1枚にします。裏面に補強をして背景のでき上がりです。

↓

設置
背景をホールの舞台の長いポールに吊るしてでき上がりです。

フレンドクラブ・プリミアエレメンタリー 音楽鑑賞会2020「木管五重奏」

フレンズ・スクエアホールにて初の開催！

仙台フィルハーモニー管弦楽団より5名の奏者をお招きし、音楽鑑賞会を行いました。今年は木管五重奏。オーボエ奏者の西沢澄博さんが各楽器の特徴を説明してくださり、それぞれの音色を聞かせてくれました。「5つの絵の具をまぜるように5つの楽器の音をまぜると美しい曲になります」。その言葉どおり、1曲目は200年も前にフランツ・ダンツィにより木管五重奏のために書かれた曲、2曲目は各楽器が順番に有名曲のメロディーを奏でていく「山の音楽家じゃんけん協奏曲」が演奏され、木管楽器それぞれの特徴ある音色を堪能しました。

「知っている曲があったら歌ってもいいですよ」と言われていたので、次に奏でられた超人気アニメの主題歌から子供達が口ずさみ始め、「サウンドオブミュージックメドレー」とアンコールの「クリスマスメドレー」では、さすが明泉生！「ドレミの歌」や「Joy To the World」「Jingle Bells」「Silent Night, Holy Night」をみなが英語で歌っていました。

～The Secret of Beautiful Music～

副園長のジャナセン先生からは、子供達に次の励ましの言葉がありました。

「毎日熱心に練習しておられるから、こんなに美しい音楽が奏でられるんだよね。みんなは明泉で何を学んでいるかな。そう、英語だよね。毎日しっかり練習したら、きっとすばらしく上達するよ！」

英文法クラスで 学校の授業や会話にも自信

中高生向けに開講している文法クラスには現在130名の生徒が在籍し、クラスメートと共に切磋琢磨しています。文法は体にたとえると骨格です。日本語も外国語も、基礎や文法を習得することで、しっかり文章を組み立て、文章でも口頭でも物事を的確に伝えられる力が身につきます。

中学1年英語文法講習会の生徒より

講習会ではいつも学校の授業を先取りして学習していたので、学校で習ったときに「あ、ここやったな」と思い出しながら学ぶことができました。

文法講習会に参加して、学校で習ったことをより深く定着させることができました。わからなかった部分も丁寧に教えてもらい、ここまで習った文法は確実に覚えています。

文法クラス担当
佐野 誠 先生

大学受験文法クラスの生徒より

私は中学1年生の頃から高校3年生まで明泉文法クラスに通っていました。その中でも、この大学受験のための文法クラスはとても有意義な時間だったと感じています。1回の授業で真っ白のノートが隙間なく真っ黒に埋まるくらい学ぶことがたくさんあって、英語力が身についていくのを実感できました。

私は明泉の長期留学プログラムで1年間のアメリカ留学を経験しましたが、留学を経験した人でもこの文法クラスで学べることはたくさんあり、むしろ留学を経験したからこそ学べることがたくさんあると私は断言できます。

このクラスは授業中に質問が飛び交います。先生方はどんな些細な質問をしても私たちが納得できるまで丁寧に説明してくださいます。さらに、勉強方法がわからなくなったことを相談した際にも様々な情報を提供してくださいました。受験英語の範囲を越えて、教科書には載らないような会話表現や聖書の話など、明泉だからこそ学べることがこのクラスには詰まっていると思います。大学受験を目指すことはもちろん、これからも英語を学んでいきたい人、明泉が好きな人に、この文法クラスを自信を持ってお勧めします。

土生 千歓（Matthew）／高森40回生

先生達はどんな仕事をしているの？ Part 2

明泉のお仕事紹介

施設管理部

幼稚園探しや見学などで初めて園を訪れる方々は、日本であまり見かけないカラフルでユニークな遊具にとても驚いたと話してくださいます。また、園庭や教室までの道すがら、私達の目を楽しませてくれる季節の花々も、園が大切にしている教育環境の一つです。今回は、それらの管理や手入れをしている施設管理部の先生達をご紹介します。

施設管理部のお仕事

遊具の設置・管理

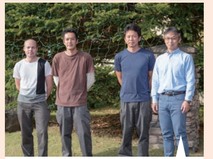
明泉の遊具は主にアメリカから輸入しています。これから丸山のホールと春棟の間のお庭にも新しい遊具を組み立てて設置します。子供達が安全に遊べるよう、日々の点検や修理も重要な業務です。

設備の管理や季節に合わせた装飾

建物・設備の修繕、クリスマスツリーなど季節の飾りつけはもちろんのこと、お遊戯会の照明や音響の指導も担当しています。

草花の手入れ

保護者の方にお声がけして始まった草花の手入れ作業。現在は3人体制で両園の草取りや植え替え作業をしていただいています。可憐でカラフルな花々は、冬でも園を華やかにしてくれます。



施設管理部一同、子供の笑顔が溢れる園を思い描きながら、日々仕事をしております。

施設管理部主事・田中 寛士